

## 宇曾川河川敷、河岸清掃のまとめ

実施日 令和元年9月1日 日曜日

天候 くもり 風力 なし 気温 開始時 28度

時間 8:30 ~ 11:00

5月に実施した第1回の清掃後、約4ヶ月。彦根市荒神山自然の家のプログラムであるリバーポート乗降場にはその間に、雑草が繁茂していた。そこで、第2回目の清掃活動を9月1日 日曜日、午前8時30分より約2時間にわたっておこなった。この活動は、以前取組んでいた彦根デザインカレッジ荒神山キャンパス事業のひとつであったが、名前を変え荒神山ファンクラブとして装いも新たに活動を始めた。その取組のひとつとして宇曾川河川敷リバーポート場の清掃活動を実施した。以前はこの活動と同時にナガエツルノゲイトウやオオバナミズキンバイ等の悪性水生植物の除去作業も併行して取組んでいたが、今回実施する場所が、滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課生物多様性戦略推進室により監視区域に指定されていたため、除去作業は行わず、整備作業、ゴミの収集と除草作業に専念した。特に、ナガエツルノゲイトウは、以前大々的に除去作業をしていただいたおかげで水鳥生息地にはほぼ見られなくなった。時折担当の方がきて監視などをしていただいているおかげもあるかもしれない。今回できなかった悪性水性植物の除去は、担当課に依頼し、快く引き受けていただいた。

さらに、水草が繁茂しているリバーポート乗降場対岸は、今年の日候不良により、「ツル草」が一面に繁茂しており足の踏み入れられない状態ではなかった。今回は、活動場所や使用場所ではないため作業はなかったが、今後立ち入る必要が出た場合作業はとて大変になることが予想される。

秋の長雨が続く中、週間天気予報では天候は当初晴れ予報であったが、前日に突然雨予報に変わった。しかし、当日は曇と再度変わった。こんなことから今年の天候不順がうかがい知れた。当日は、多少小雨がぱらつくことが予報から心配されたが、途中に日差しもあり、適度に活動ができるコンディションであった。



参加団体は、荒神山ファンクラブ、滋賀県立大学生およびインターンシップ大学生、荒神山山王会、指定管理者高木造園、彦根市荒神山自然の家職員。荒神山を愛する仲間や各関係機関には参加要請をかけた。参加者14名が一堂に集って作業を始めた。今回事前踏査の段階では、例年に比べてゴミの不法投棄は、少なく感じたし、ナガエツルノゲイトウなどの悪性水生植物の繁茂も思ったほどではなかった。しかしながら、新たに繁茂したナガエツルノゲイトウもあり、また、葦などが群生してきた中に漂着したゴミが多量にあった。

計画の上でも人数等の配置がとて難しく、各団体に協力依頼したものの、すべて撤去したあとの始末を考えるとなかなか手配や作業推進が難しいと感じている。

作業場所は、荒神山自然の家の活動プログラムのひとつとなっているリバーポートの乗り場、さらに進入通路両脇ならびに水鳥の生息地でもある葦の植生地周辺および、左岸乗り場周辺の悪性水生植物の密集地で作業を進めた。活動環境を整えるために、リバーポート乗り場の草刈り、リバーポート乗り場へいく階段と乗り場の草刈りと周辺の整備、リバーポート乗り場付近の漂着物やゴミの不法投棄の撤去をおこなった。

まず、草刈り隊は、草刈り機で下草を刈り、回収。集めた草については、邪魔にならないところへ置き、子どもたちが裸足で歩いてもけがをしないように、また、美しく見栄えがするように刈り込んでいった。同じく、階段（2カ所）は鎌を使い、草取りもおこなっ

た。さらに、乗り場周辺のゴミを火箸などで分別し、回収し子どもたちが裸足になる場所の安全確保をおこなった。

ゴミの回収は、唐崎橋下付近とかつての葦群生地である。唐崎橋下付近およびリバーボート乗り場のゴミは、徒歩で一つひとつ拾い上げ回収をした。しかし、葦群生地は河川内にあるために、所員が乗り合わせたリバーボートで、葦群生地に行き網で漂着物の回収をして、ゴミ処理に当たった。また、レーキやクワなどで引き上げたり、河川敷に拾い上げたりしてゴミを取り除いた。回収したものの多くは、ペットボトル、ビン、ビニール、プラスチックごみ、発泡スチロールなど。奥深く入り込んでいるゴミは残念ながらボートが入れず今後の課題となった。しかし、乗り場付近にはゴミの不法投棄等格段に少なくなっていたことに喜びを感じた。

一方、悪性水生植物の除去作業は、以前は繁殖がすごくあまりにも作業場所の草の多さに所員一同ため息が出たことを思えば、今年是一部新たに根付いたと思われるところもあった。リバーボート活動があるたびに少しずつ除去していたことも功を奏しているのかもしれない。以前県立大学の先生から、水生植物の特徴や特性、その除去の仕方などを要領よく講義していただいたことをもとに、除去作業をする予定であったが、作業場所のリバーボート乗り場から上流に50メートルほど上ったところは滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課生物多様性戦略推進室が監視区域に指定されていたため、撤去作業は行えず撤去依頼をしておいた。ここは、リバーボート開始後うまく漕げずに中には漂着や着岸してしまう場所である。今後は、胴長を身にまとい水の中に入ってとにかく水生植物を根元から引き抜く作業を延々と行う必要が出てくる場所でもある。ただ、この作業で留意しなければ



ならないのは、茎のひと切れでも流れ出すとその茎が漂着した場所で根付いてしまうという危険性を持っていることである。そのために、水の中で網を持ち茎が流れ出ないように廻りに注意を払いながら網でつぶさにくくい上げ根絶やしにしなければならぬ。いつものことではあるがなかなかこの作業が大変である。完全に切り切れていないため新たなところに根付くといういたちごっこ的なこのルーティーンを今後も繰り返していかなければならないことも課題のひとつであろう。

引き上げたゴミの回収は、滋

賀県湖東土木事務所、管理調整課に依頼をした。清掃活動終了後は、参加した人からもとても美しくなって気持ちがよいなどの声が上がって心地よい疲れが残った。また、道行く人も関心深く作業を眺めておられる方も多数あった。

いずれにしても、この場所は、子どもたちなどがリバーボート活動をしたり、水鳥が生息したり、かもたちが羽を休めくつろぐ場所でもある。今後も、環境整備と環境改善に尽力していき、うつくしい心安らぐ場所になるよう取り組んでいきたい。

活動の周知を図るために、リーフレットを作成し地域団体等に呼びかけたり、さらには、地域コミュニティ掲示板に貼付することも視野に入れる必要があるかもしれない。現地での啓発看板も設置をしたり、荒神山の林道に看板を立てかけ呼びかけを行なうことも一途であろう。以上のような周知方法を取りながら、いかに活動の重要性を理解していただき、現状認識と活動への興味を抱いていただくかが課題となりそうである。

大学も、夏休み故参加できる学生自体が少ないであろうから、生活環境課や利用団体などを通じて啓発を行なうことも考えてもいいと思われる。

以前から協力的であった彦根市市民環境部生活環境課環境保全係も、悪性



水生植物の繁茂には苦慮されており今後ともに協力体制を構築しながら、環境保全活動に尽力していきたい。

